

## (第96回) 歌舞伎「吉例顔見世大歌舞伎」

11月11日(第一部)、11月17日(第四部) 歌舞伎座

本年2月以降新型コロナの猖獗に拠り、3月歌舞伎の観劇会は中止となり11月の観劇会も従来と大分様相が異なる形式で行われました。演目も従来と異なり、毎日一部から四部編成となり各部共1時間半前後の一幕のみの演技方式となりました。歌舞伎座会場も入館時の消毒、検温等を始め着席状態全てに亘り万全とも云える対策を取っている事充分に感じられた次第です。今回私が観た演目は第一部/蜘蛛の絲宿直嘶(くものいとおよずめばやし)と第四部/義経千本桜(よしつねせんぼんざくら)の二演目のみですので、下記の通り観戦記をご報告します。

## 蜘蛛の絲宿直嘶(くものいとおよずめばやし)

主人公の源頼光は平安時代中期の実在の武将で、大江山の酒吞童子を退治した逸話は皆様も幼少時代から本で読んだりしてご存知の事と思います。この演目の最大の見所は主役である市川猿之助が女童、小姓、番頭新造、太鼓持ち、傾城の五役を一人で演



じる、所謂五変化(へんげ)にあり浄瑠璃と三味線をバックに猿之助の小気味良い変化(へんげ)振りが観客を酔わせていたと感じました。

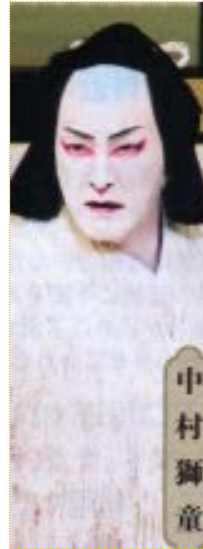
Story としては人間界を魔界に転生せんと企む女郎

蜘蛛の精が様々な形を変えて頼光殺害を試みますが、最後は頼光とその家臣(薄井貞光と坂田金時)に拠って討たれてしまうと云う源頼光と云う歴史上実在の武将的一幕。

## 義経千本桜(よしつねせんぼんざくら)

第一部源頼光より数十年後平安朝末期に、活躍した源九朗義経のお話で歌舞伎の三大名作の一つとし

て18世紀中頃人形浄瑠璃で初演されたのが始まりと云われています。



義経に就いては源平盛衰記や義経記等で皆さんご存知の通り絶頂期にあった平家王朝を討ち果たした英雄ですが、鎌倉幕府初代征夷大將軍である実兄の頼朝との確執(実態は頼朝の義経に対する嫉妬)に拠り源氏を追われ日本中を逃げ回った

挙句、最後は平泉で藤原秀衡一族に討たれてしまうという悲劇の抒情詩です。赤穂浪士詩の討ち入り物語と共に広く国民に愛読された物語。扱、舞台は染五郎扮する義経と愛妾静御前が前述の頼朝との確執により京を追われ吉野山中。そこへ義経の側近佐藤四郎忠信(後に弁慶等他の側近と共に平泉で義経と共に戦死)に扮する中村獅童が見舞いと称して訪問しますがこの獅童は義経忠臣の佐藤四郎忠信と世に云う源九郎狐の二役を演じております。劇中義経逃避行に同行している、駿河次郎清繁と亀井六郎清重等の家来衆が獅童演じる佐藤四郎忠信(源九郎狐)との間で詮議をする場面が続きます。

この演目の見所の一つは主人公義経の演技もさる事ながら、獅童が演じる源九郎狐の振り即ち狐手といわれる身振りや狐詞(ことば)と云う独特の台詞廻し、更には子狐の悲嘆にくれる所作等歌舞伎ならではの舞台が続きます。全編に流れる浄瑠璃と三味線のBGMも物語の悲哀さを引き立てており感動溢れる一幕でした。

11月11日、11月17日は、一部から四部でアイアン・クラブ会員ならびにご家族の方が各々10名、22名参加されました。(相田 實・記)